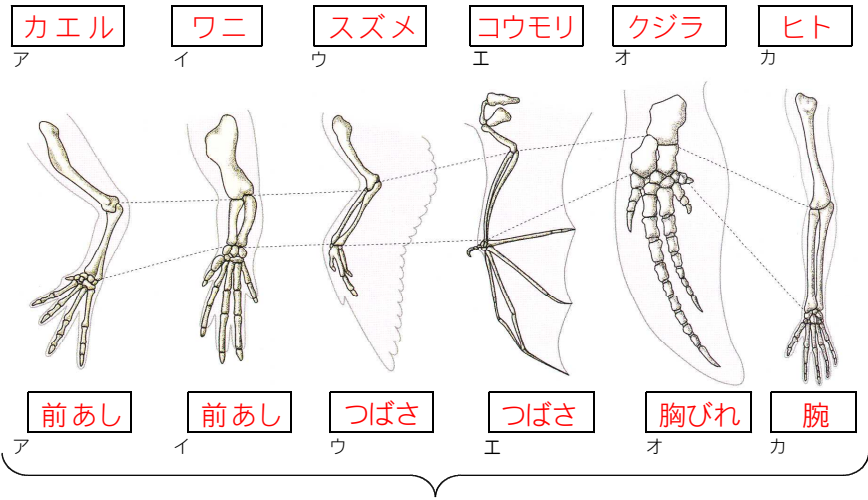


動物の進化－①

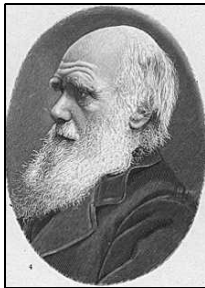
次の図は、セキツイ動物の前あしの骨格を比較したものである。



これらは、もとは同じものが変化したものだと考えられる。同じものから変化したと考えられる体の部分を相同器官という。

相同器官の特徴は、

- ① 外形やはたらきは同じとはいえない。
 - ② ある生物が変化して別の生物が生じることの証拠の一つになる。
- 相同器官の中で、ヘビやクジラの後ろあしのように、はたらきを失って痕跡のみとなっているものを、痕跡器官という。
- ハトのつばさやチョウのはねのように、形やはたらきは同じだが、起源が異なる器官を相似器官という。



1859年、ダーウィンは「種の起源」という書物を発表した。その中で、生物は多くの代を重ねる間に変化するもので、その結果新しい種が生じてきたという考えを発表した。(イギリス人)